



ポタンダウンの似合うスタッフは“ニュアンス”が映画にとって最重要と考えた。

人間って、なんて面白いんだらう。

お宝

製作 ● 鈴木 光

監督・脚本 ● 森田 芳光

撮影 ○ 渡部 眞
 照明 ○ 木村 太郎
 録音 ○ 橋本 泰夫
 整音 ○ 小野 寺 修
 効果 ○ 小島 良雄
 音楽 ○ 塩村 亨
 編集 ○ 川島 章正
 助監督 ○ 山本 厚

《キャスト》

● 秋吉久美子

● 伊藤克信

小林まさひろ

でんてん

大野貴保

● 麻生えりか

五十嵐知子

風間かおる

直井理奈

春風亭柳朝

入船亭扇橋

内海桂子

内海好江

● 吉沢由起

鷺尾真知子

清水石あけみ

三遊亭楽太郎

芹澤博文

永井 豪

● 加藤治子

● 尾藤イサオ

● 主題歌

シーユーアゲイン 雰囲気

See You Again in the Mood

B side 一夜はムーンビション

作詞：タリモ 歌：尾藤イサオ
 作曲：浜田金吾 演奏：NONO

TOSHIBA EMI



● 製作

N.E.W.S. CORPORATION

日本ヘラルド映画

オモシロ人間たちが作ったオモシロ映画!

オモシロイ人間がいるんじゃないかって、人間はオモシロイものなんだ——。

「何かオモシロイことないかよ?」とウロウロしているキミ、「ウッソ〜」を連発しているアナタ、隣の人間をよく観察してみよう。実にオモシロイではないか。ちょっと見回せば、オモシロイことはたくさんあるぜ。それを見つづけることが、また、オモシロイ。

というわけで、ボタンドアンの似合うオモシロ人間たちが、何やら奇妙なオモシロ映画を作った。その名は「の・ようなもの」。舞台は懐しき香りの漂う東京の下町。登場するのは落語家のタマゴにトルコ嬢、そして、女子高生。出し物は、ありふれた青春の断片を軽妙なタッチで綴った“おかしうてやがて哀しき”青春コメディ—。

オモシロ好きのキミもアナタも、“寅さん”を超えた(?)新しい感性のコメディ—で、笑いのシェイプアップを試みたら?

いま、ニュアンスを大切にしたい

“の・ようなもの”=“ニュアンス”=“イメージのふくらみ”。クサイギャグや下らぬ駄バタ、ましてや押しつけの笑いなんてもう古い。各々の感性にマッチした微妙なニュアンスこそが、いま新しい笑いの源なんだ。人間の持つおかしさのニュアンス、風景の持つ奇妙なニュアンスを大切にしたいこの映画、全篇通してニヤニヤ、クスクスしっぱなし。笑いの未体験ゾーンにいざなってくれる。

さて、このニュアンスコメディ—のストーリーを簡単に紹介しよう——。落語家のタマゴニツ目の志ん魚は、仲間のカンパで念願のトルコ初体験を果たした。しかも運よく、美しいトルコ嬢エリザベスとお付き合いできることになった。そして一方では、女子高落研のカワユイ由実ちゃんともデート。本職の落語はイマイチだが、両手に花のバラ色人生。が、そこはロベタ、ドジ、クソマジメ、金欠病の志ん魚のこと、そうはうまくいかない……。

監督・脚本 ■ 森田 芳光
製作 ■ 鈴木 光

人間って、なんて面白いんだろう。

の・ようなもの

主題歌 / 東芝EMI
製作 ■ N.E.W.S.CORPORATION
カラー作品 / 日本ヘラルド映画



アイビーと江戸とバラードと

トラディショナルな落語とアイビーはよく似合う。アイビーでキメタ落語家たちが繰り出すのは、江戸情緒を残す東京下町の某駅、某団地、某ビアガーデン……。そして、新宿、渋谷、吉祥寺。見慣れた町、埋もれた街角こそ、逆に新鮮なんだ。“江戸プラスTOKIO”感覚で、アイビー VAN ザイノ

カワユイ落研ギャルズファッションはといえ、各々の個性、カラーを大切に“ひとりONEブティック”。映画館にいながらに原宿、六本木あたりをウインドショッピングしているような楽しいファッションカタログとなっている。

音人間のキミなら浜田金吾の名前は知っているだろう。いま注目の都会派ミュージシャンだ。バラードっぽいこの映画のテーマ曲は彼が作曲し(作詞はタリモ=森田監督)、尾藤イサオが歌っている。シティー感覚の洗練されたこの曲は、絶対に聴き逃がせない。

久美子ちゃんと日光版アル・パチーノ

ペンギンブックスをインテリアとし、キャリアガールのようなブランド志向のトルコ嬢エリザベスを演じるのは、久々の映画出演のわれらが秋吉久美子。彼女とお付き合いしてもらおうラッキー坊や、ニツ目の落語家志ん魚役には新人の伊藤克信。日光出身の彼は、三枚目のアル・パチーノのような顔立ちから栃木なまりの飛び出す、オモシロキャラクターの持ち主だ。彼を取り巻く落語家仲間には、尾藤イサオ、でんでん、小林まさひろ(元ハンダース)、大野貴保(ヤマハのCFでおなじみ)らが扮している。

オモシロ人間大集合をやったのけた監督は森田芳光。自主製作映画では10年のキャリアを持ち、「ライブイン茅ヶ崎」(8%、'78年)で一躍脚光を浴びた彼の35%劇場用映画デビュー作がこの映画だ。マルチ人間の彼が、オモシロスタッフとユニークキャストで、新しいニュアンスコメディ—を作ったわけだ。



監督・脚本 森田芳光

◆9月12日(土)より「オモシロ」ロードショー

東急文化会館6F (407)
渋谷 東急名画座 7229